

ついに韓国にもメイカームーブメントに火が？ 「Mini」が取れたメイカーフェアソウル 2015 に行ってみた【連載:高須正和】

エンジニア type がリニューアルするということで、1 年あまり続けてきたこの連載も最後になりました。様々なコメントをいただき、誠にありがとうございました。

ちょうどこのタイミングで、この連載でレポートしてきたようなアジアのメイカーズ事情を、井内育生さん・きゅんくん・江渡浩一郎さん・山形浩生さんらニコニコ技術部深圳観察会の面々とまとめた、「メイカーズのエコシステム」という書籍が出ます。深圳のエリック・パンやシンガポールのヴィヴィアン・バラクリシュナン大臣といった、過去登場した人たちの活躍ぶりと、日本との関わりが描かれているので、ぜひご一読ください。

最終回の今回は、お隣ソウルのメイカーをレポートします。

2015 年 10 月 10 から 11 日の 2 日間、韓国ソウル市の南カンナムエリアに近い [Gwacheon National Science Museum](#) にて、[メイカーフェアソウル 2015](#) が開かれた。今年から「Mini」がとれてフルスペックのメイカーフェアとなったのを機に足を運んだ。

■ソウルにメイカーフェアがやってきた



キャプション：アドバルーンの上がる会場。屋外にはテントがいっぱい

筆者はアジアのメイカーイベントによく参加するが、中国人やマレーシア人はよく見るけど、韓国人のメイカーを見ることは少ない。クラウドファンディングなど、オンライン上でもあまり見かけた経験がないため、これまでソウルのメイカームーブメントの感じがつかめずにいた。

2015 年の 6 月に、この連載でも何度か紹介したシリコンバレー・深圳のベンチャーアクセラレータ [HAX](#) を訪問したときに代表の Cyril Ebersweiler（シ ril・エバースワイラー）

から「今年はまだ 2 回もソウルから大規模な訪問団が来てて、パク大統領に直接呼ばれて話に行ったりもした。

もともと、優秀な人間ほど大企業に入るカルチャーだから、スタートアップがもてはやされるわけじゃなかったけど、今は世界が多様化してきてるし、あの国は決まると早いからね.....」と聞いた。

その言葉通り、メイカームーブメントが一気に普及するのではないかと感じさせてくれるフェアだった。



キャプション：とても大きな科学館 Gwacheon National Science Museum。中にはメイカースペースもある

■「ホビー」「学生」「スタートアップ」とバランスのとれた展示

出展は 193 組、あいにくの雨で客足は 2 日間合計で 5673 人だったが、様々なバックグラウンドを持つ出展者が集まっていた。



キャプション：木製の海と船。ハンドルを回すと全体が稼働する

（編集宛：もし Vine を Enbed できたら、この写真は下の動画にさしかえてください）

ぜひ[動画](#)をみてもらいたい。上の船は木製のハンドルを回すと、波打つ海に揺られる船のジオラマが、船も海もダイナミックに稼働する。下部のギア含めてすべて木で作られていて、設計のアイデアも工作精度も必要になる作品だ。2カ月程度で完成させたという。おもわず現地から Twitter にあげたところ、多くの Maker から賞賛のリプライが届いた。

こちらは金属を 3D プリントする 3D プリンタ。金属の 3D プリントは珍しく、メイカーフェアに出すレベルの人たちがやってるのはさらに珍しい。どうやって実現しているのかと思ったら、なんとアーク溶接で金属を繰り出し、盛り上げて 3D プリンティングする仕組みだった。



キャプション：アーク溶接で金属 3D プリントを！



キャプション：プリントアウトされた金属

この形の 3D プリントそのものは以前からある形だが、実際にメイカーフェアで見たのはこのソウルが初めてである。アルゴンガスをつかった溶接なので、ガスが拡散しないよう

にするなど、実際に作るためのノウハウが必要なものだと思う。
きっちりと作って展示しているところにクオリティの高さを感じた。

アーク 3D だけでなく、普通の 3D プリンタももちろんたくさん展示されている。



キャプション：韓国製の ZENTRA 3D というデルタ式 3D プリンタ

■変形するドローンやバッドモービルのようなバイクも
会場の端には網で囲われた空間があって、ドローンの飛行スペースになっている。
良いアイデアだと思ったのが、この変形するドローン。



キャプション：輸送時は取っ手のついたスーツケースぐらいの大きさに折り畳める



キャプション：広げると飛行できる。ケージ内の限られたスペースの中で見事に飛行して

いた

ソウルの学生が作ったこのプロジェクトは、輸送時はローターガードを外側に向けスーツケース型に畳むことができ、飛行するときは広がってクアッドコプターの形になる。開いたり閉じたりするのもサーボで駆動させているため、飛行時にそのぶんの荷重が負担になると思ったが、見事に安定して飛行していた。大きいドローンは、さらに大きいケースで囲んで運ばなければならないので、これはグッドアイデアだと思った。



キャプション：バッドモービルのような電気自動車

こちらは映画バットマンに出てくるバッドモービルのような電気自動車。車輪はスクーターからの流用で、DIY 感の溢れるプロジェクトだった。



キャプション：こちらはプロの犯行っぽいプロジェクト。工作機械にレンガを積ませて壁をつくらせる。会期終了時にはけっこう積み上がっていた



キャプション：歯ブラシとガジェットを組み合わせたもの

こちらはプロダクトデザインを手がける学生プロジェクト。電動歯ブラシにセンサーを取り付け、充分磨かれたかどうかを判断して、歯の形の人形が笑ったり泣いたりする。歯磨きの習慣化はよく言われるテーマだし、人形のように形を持ったものがアクションするのは、よりアピールする力がありそうだ。



キャプション：3Dプリンタで外装、ワイヤーとサーボで動作を作っている義手。ロボティクス義手は多くのメイカーフェアで見かけるアツいテーマ



キャプション：森翔太さんの[仕込み iPhone](#) 的な何か？ と思いきや、テルミン的な音色のアナログ入力シンセサイザー

メイカーフェア東京にもあるダークルームもあり、メディアアート系の Maker が作品を展示していた。



キャプション：3D プリンタで作った人形と懐中電灯を使った作品

これは人形に懐中電灯で照らすと、向こうのスクリーンに影が映り、その影が突然アニメーションを始める作品。懐中電灯の光も人形の影も全部プロジェクタで作ってある。

■日本ほか海外からのメイカーも活躍

ソウル、東京間は、正規料金でも往復 2 万円台、2 時間半でフライトできるので、金曜夜に東京を出発して日曜夜には帰ることができる。東京のメイカーにとって、もっとも身近な海外フェアになるだろう。そのせいか、日本からも何人かのメイカーが参加しており、それぞれ人気となっていた。



キャプション：台北、山口など、各地のメイカーフェアに出展している、みうさんの「おにんぎょうづくり」ワークショップ。ソウルの中古街で素材を買い付けて新作を展示



キャプション：ソウルのメイカーが作ったロボットハンドとペアショットを撮るロボティクスファッションクリエイターのきゅんくん。現地テレビの取材を受けるなど人気だった



キャプション：こちらも各地のメイカーフェアでおなじみ、オープンソース化した羽ばたき飛行機を展示している Fablab 北加賀屋の高橋祐介さん。後日ソウルの Fablab に訪問するなど、交流を持っていた。



キャプション：スウェーデンのメイカーが生んだ [Strawbee](#) を台湾で展開中のアメリカ人ジェイソンときゅんくん。シンガポールからは僕も参加

いくつかのメイカーは、ソウルの運営チームがメイカーフェア東京や深圳で直接声を掛

け、集めたという。僕も招聘などで少し手伝ったりしている。今後も逆にメイカーフェア東京に出展しに来るソウルの人が増えたり、両方のコミュニティがより近くなるといいと思う。